



# 電車どおり

平成31年3月25日発行 第163号 函館中央病院 発行責任者 本橋 雅 壽



総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、北海道小児地域医療センター、日本医療機能評価機構認定施設

基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

## がん患者さまへ「ケアぼうし」を提供

### アピアランスケアに貢献

### 「手づくりキャップ・リラの会」へ感謝状

当院は以前よりがん患者さまへの治療・ケアに力を入れておりましたが、2014年に北海道がん診療連携指定病院を受け、道南圏ではより一層の努力をしております。

抗がん剤治療の副作用などで容姿や外見に変化をきたすこともあります。それらをケアすることは「アピアランスケア」と呼ばれています。美容の意味で美しくするのではなく、「その人らしくする」と言う意味です。また、アピアランスケアは社会との繋がりを



ケアぼうし

つくると言う意味でも非常に注目をされております。

ボランティア団体「手づくりキャップ・リラの会」は2017年より活動され、抗がん剤治療の副作用などで脱毛された時に多く使用される「ケアぼうし」を、タオル地などを利用し手作りされて市内の医療機関へ無料配布されています。2017年8月に当院に置かせていただきたいとお話しいただきましたが、その時は設置スペースが無く、「もう少しお時間を下さい」とお返事してお待ちいただいております。2018年5月に中央棟1階に「がん情報コーナー」を開設したことで、改めてこちらからお願いのご連絡をし、現在に至っております。

患者さまからの反響は予想以上で、「ケアぼうし」を設置すると1週間も経たずにすべて無くなってしまい、早い日は設置した当日に無くなることもあります。実際使用された患者さまからは、「軽くてとても良い」「洗い替えて2枚使わせてもらっている」など好評をいただいております。2019年3月までに設置いただいた枚数は、なんと「245枚！」他の医療機関より倍以上の数字だそうです。これだけ当院の患者さまの

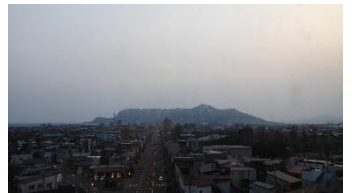
アピアランスケアに多大に貢献されております。その功績に感謝の意を表し、先日、本橋院長からリラの会のみなさまに感



本橋院長よりリラの会へ感謝状が贈られました

## 中央・病院・前

年度末となり多忙な毎日をお過ごしの方も多いのでは？ 私もまあまあ忙しく



しており、そのせいなのか物忘れが目立つようになりました(悲)。仕事の整理が出来ていないのか、それとも何か別の理由があるのか。こんな時はゆっくり温泉旅行にでも行きたいものです。少しだけ現実から離れ、ゆっくりじっくり温泉に入り、冷たいビールと食事をして・・・そんな妄想をしています。いや、妄想で終わらせるのは嫌だ！こんなやりとりを一人ですしてしまうのです。近いうちに行けるといいなあ。さて、新生活を迎える方、さらなる飛躍を目指す方など皆さんそれぞれのスタートです。新年度も頑張りましょうね！！

謝状をお渡ししました。リラの会のみなさまからは「励みになりました」「また頑張ります」とお言葉をいただきました。

リラの会は全員で10名ですが「ぼちぼち」のペースで作成されているとのこと。コーナーに無くなってしまった場合には、焦らずにお待ち下さい。また品質改良のために実際に使用されている

患者さまからの感想もお聞きしたいそうです。

「ケアぼうし」に関するご意見・ご感想やお問い合わせは、中央棟1階の総合医療支援センター内「がん相談支援センター」までお気軽にお寄せ下さい。



## アレルギーの克服に向けて

### アレルギー週間記念講演会と医療相談会

- ◇ 日時：平成31年4月6日(土) 14:00~15:30 (開場 13:30)
- ◇ 会場：函館中央病院 南棟8階 講堂
- ◇ 講演：「目のアレルギー」  
講師 大野 重昭 先生 (北海道大学眼科名誉教授)
- ◇ アレルギー医療相談 (各専門医が担当します)  
内科・小児科・眼科・耳鼻科・皮膚科

■共催/公益財団法人日本アレルギー協会北海道支部・鳥居薬品株

参加申込み不要・参加費無料(当院駐車場は有料です。)

## 第12回 道南圏周産期医療研修会

### 総合周産期母子医療センターとして 毎年地域の周産期医療関係者向けに開催

平成31年3月16日(土)に第12回道南圏周産期医療研修会を開催致しました(参加者約60名)。当院では道南地域で周産期医療や母子保健に携わる関係者の方々を対象に、総合周産期母子医療センターとしての当院の取り組みや現状を知っていただき、関係者の皆さまとの協力体制・理解を深めることで、道南地域の周産期医療体制をより良いものにする事を目的として、毎年研修会を開催しております。研修会では当



院診療部長の産婦人科片岡医師と副院長の小児科木田医師が講演を行ない、当院小児科の石倉医師が座長を担当しました。産婦人科の片岡医師から講演の前に道南地域全体の出生数の推移に関するデータが示され、2018年の出生数は2,514件でした(グラフ①参照)。うち、当院での出生数は724件でした。

片岡医師からは「母子の予後をより良くするための帝王切開への取り組み」というテーマで、帝王切開術での2つの縫合方法の違いがもたらす術後の経過を比較検討した研究内容について講演が



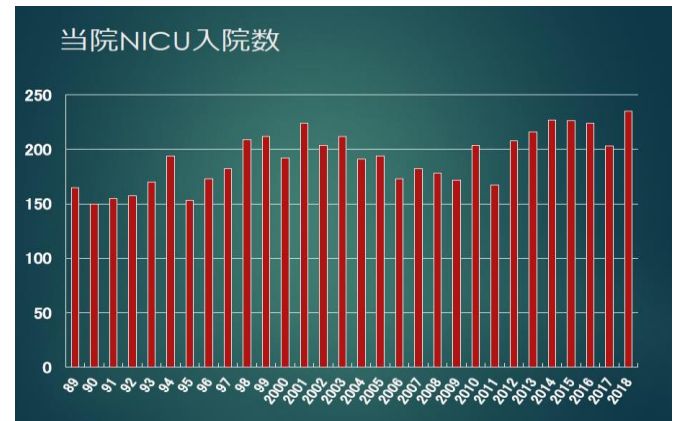
グラフ①

ありました。また、帝王切開の施行時期については、分娩週数が37週や38週の時期に施行するのと比較し、39週に施行する方が新生児に起きる呼吸障害の頻度が低くなるという研究データが示されました。

木田医師からは「NICU(新生児集中治療室)入院児の社会的状況」というテーマで、父母の社会的背景(未婚、貧困など様々な社会的状況)が生まれる子に影響を与えるのではないかと、その因果関係を探る研究内容が話されました。木田医師は小児医療に携わるなかで、様々な親の姿や家庭環境を見てきております。その中には、親の無責任さが原因となり病気を抱えた子や助かったであろう命が助からなかったというケースもあります。また、人口減少や不景気という問題を抱える函館市の地域性も要因として関係しているのではないかとという視点からの講演内容でした。

上のグラフ①から出生数は減少していることがわかりますが、当院NICUに入院される子は近年増加傾向にあります(グラフ②参照)。これは道南地域の周産期医療の医療レベルが向上している証拠です。これまでは助からなかった命を現在ではNICUに入院するまで繋ぐことが出来ていることとなります。また、生まれたばかりの小さな命をより安心なNICUに任せたいという医療従事者の強い思いの表れでもあります。

今後も地域の医療機関や行政機関が一体となり道南の周産期医療を支えていく必要があります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



グラフ②

## 「皮膚病」に関する市民健康教室

- 日時：平成31年4月13日(土)13:30~15:30
- 会場：函館アリーナ サブアリーナ(函館市湯川町1-32-2)
- 参加：申し込み不要・無料

### 講演内容

#### 「アトピー性皮膚炎について」

函館中央病院 皮膚科科長 平田 悠 先生

#### 「带状疱疹について」

函館渡辺病院 副院長 菅原 隆光 先生

#### 「ピアスとイレズミ」

五稜郭大村美容形成クリニック院長 大村 勇二 先生

## GWの休診について

今年のゴールデンウィークは以下のとおり休診となります。休診期間中はお間違えのないようお願い申し上げます。

**休診期間：4月28日(土)～5月6日(月)**

### 【患者さまの権利】

- ・安全で良質な医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

### 【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務



## セカンドオピニオンのご相談は・・・

総合医療支援センター(中央棟1階)へ  
お気軽にご相談下さい。

『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。 連絡先：TEL 0138-52-1231(内線2263)

次号発行予定は4月25日です。お楽しみに!!